



共通教育科

田中 健一 教授

【研究分野】 生理学、神経精神薬理学、病態生化学、実験心理学  
 【キーワード】 神経変性、メンタルヘルス、依存 & 嗜癖、口腔保健、医薬品 & 健康食品等  
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pcid=2551ana>



## 人はなぜハマるのか～依存 & 嗜癖への行動変容について

### 研究概要

社会問題化している“危険ドラッグ”をはじめとする薬物（物質）依存は古くて新しい問題です。また、ギャンブルや買い物に加え、インターネットやゲームにハマる若者が増えています。薬物（物質）に限らず、なぜ、ヒトは何か“ハマる”のでしょうか？「嗜好・嗜癖・依存」を手掛かりに“ハマる”仕組みについて理解することを目指します。

### 研究紹介

依存症を予防するための研究：依存症の基盤となる嗜好・嗜癖・依存に関連する高次脳機能とそれを支える神経機構や脳機能を解明する目的で多彩な手法により検討します。これにより、依存症形成の予防並びに阻止に有効な方策・対策について提案したいと思います。

### 講座テーマ紹介

依存症並びにその基盤となる脳・神経に関連する知識の習得を目的とした講演・研修会等の実施：

“ハマる”こととはどういうことか、最新の知見を織り交ぜながら“ハマる”仕組みを理解していきます。また、“ハマらない”ための知見はあるのでしょうか。現代の社会問題に深く関係する課題として、「ヒトはなぜ “ハマる”のか」一緒に考えたいと思います。

### アピールポイントなど

中高生、一般市民、養護教諭・特定保健指導者等専門家等の対象に合せた講演や研修会の実施が可能です。話の内容も、スタンダードな構成だけでなく、例えば、禁煙を中心に話して欲しい、インターネットやゲーム依存の話をして欲しい等、ある程度、アレンジすることは可能です。

### 臨床研究例～医学的介入の効果検証

・研究スケジュール：事前検査 → 介入試験 → 事後検査

・事前 & 事後検査：代表例

1. 心理検査：評価尺度・質問紙

- ① 嗜癖傾向評価尺度：先行研究を参考に作成中
- ② 精神的健康度：The General Health Questionnaire (GHQ) 日本語版
- ③ 気分プロフィール検査：Profile of Mood States (POMS) 日本語版

2. 生理機能検査：バイタルサイン（健康状態）、皮膚電気活動（情動変化）、心拍変動解析（自律神経機能）、フリッカー試験（精神的疲労度）等

3. バイオマーカー測定：唾液によるストレスマーカー測定

これまでの研究例：

- ① 依存症予防における不安関連行動のエンドフェノタイプとしての可能性
- ② 依存性形成の危険度評価に関する検討
- ③ 口腔機能の改善が精神的健康度に及ぼす影響とそのメカニズム